

じゅしゅう

報恩講法要 厳修

四月十六日(土)・十七日(日)の二日間、三年ぶりとなる報恩講法要をお勤めさせていただきました。

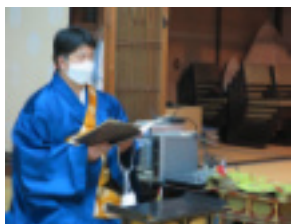
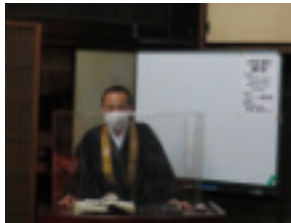
昨年と一昨年は内勤めの法要でした。時間になればお勤めさせていただいておりましたが、参拝の皆さまがいない法要は寂しいものでした。この度は、満堂とまではいきませんが、それでも皆さまと一緒にお勤めができ、お聴聞できることは何物にも代えがたい喜びであることを確認することができました。

十六日十四時の初座には奉讃大師作法、十九時から夜座には正信念仏偈の行譜と御俗姓の拝読。十七日

十四時からの御満座には正信念仏偈作法のお勤めをさせていただきます。

ご法話は大阪市旭区より中西昌弘先生です。ご讃題には教行信証の総序から、「ああ、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく、真実の淨信、億劫にも獲がたし。」

(中略)
誠なるかな、撰取不捨の眞言、超世希有の正法聞思して遅慮することなかれ。」の部分を読みました。



第37号
(通算377号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

ご開山親鸞聖人がおられなければ、私にお念仏の教えは伝わってこなかった。報恩講という法要は、まずは親鸞聖人のご苦勞に感謝申し上げることで。

その上で、伝え残してくださったお念仏には自力聖道門の念仏と、他力浄土門の念仏があり、煩惱がなくなることはない私にとつては他力のお念仏しか救われるすべはなく、阿弥陀さまが「我に任せよ」と仰るお念仏こそが私の救いとなるのです。そのままを聞かせていただくことですよ、お取り次ぎいただきました。

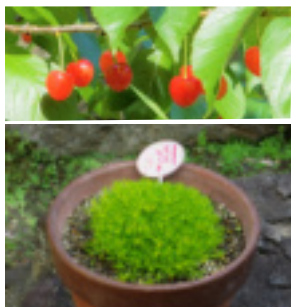
浄覚寺ヨガ教室

- ・5月18日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの貸し出しもありますので、お気軽にご参加ください。

浄覚寺チャンネル

春の彼岸会に引き続き、この度の法要のご法話も収録しました。素人編集ではありますが、三座のご法話をYouTube「浄覚寺チャンネル」に掲載しております。長時間ですので、好きな時に好きなところからご覧いただき、いつでもお聴聞いただければと思います。YouTubeのアプリで「浄覚寺」と検索していただくか、下記のQRコードを読み取ってご覧ください。



この砌みきりにおいて

仏法の信・不信を

あひたづねて

これを聴聞して

まことの信心を

決定すべくんば、

眞実眞実、

聖人報謝の懇志に

あひかなふべき

ものなり

『御俗姓』



御文章に聞く(第33回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨園著 本願寺出版社

信心獲得章(五帖第五通)
 悪業無始以来つくりとつくる
 願力不思議をもつて消滅す
 不退の位にすべからず、これに
 よりて・煩惱を断ぜしめて、
 槃をうと・義は・当流一途の所
 り、このなり、他流の途の対
 なるものなり、沙汰あるべか
 て・かくのごとく、よくよく、
 らざるところなり、よくよく、
 こころうべきものなり、よくよく、
 あなかしこ あなかしこ

まれるものです。阿弥陀さまから賜る信心には、私たちがいのちが続く限りはてしない昔から造り続けてきた悪業や煩惱を、すべて消滅してください。道理があるというのです。何故かという、阿弥陀さまの本願力は私たちの悪業、煩惱を破げとされないからです。例えるなら、太陽や電気の光は壁という碍げがあるとその向こうには届きませんが、阿弥陀さまのはたらきはどんなに大きな壁であろうが、私に届く力を持つておられます。

といつても悪をしても良いということではありません。いくら薬があるからといって、敢えて毒を飲むことはしません。阿弥陀さまのはたらきとは、毒に負けることなく、薬を用意した上で、私に毒の存在を知らしめる、という諭えがわかりやすいでしょうか。

仏教語辞典



院主

住職のことをいう。寺院の主という意味。地方によっては院家ともいい、「ご院家さん」と呼ばれたりしている。他にも和尚、方丈、上人など呼び方は多種多様で、葬儀会社によってはまとめて「先生」と読んでいる場合もある。理由を尋ねてみたら、笑顔で「無難だからです」と答えてくれた。

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。発送が遅くなり、お待たせしてすみません。近頃ニュースで「三年ぶりに」という言葉を耳にします。ゴールデンウィークには行動制限がなかったりと、少しずつ以前の状況に戻りつつあるのかと感じます。当山も三年ぶりの報恩講をお勤めさせていただきました、法悦の余韻を楽しむことができました。

先月にも書きましたが、今年には聖徳太子が亡くなられて千四百年となります。四天王寺では毎年、太子のご命日に「聖霊会」というご法要を勤めておられますが、今年は百年ぶりの大法要でした。私も出仕をさせていただき、歴史の一端に名を刻むことができたこと喜んでおります。もちろん、世に名が残るかどうかは関係なく、いのちの繋がりの中に生きている私たちは、それぞれに意味のあるいのちです。(釋法道)

行事案内

年間法要行事予定表にある五月十一日(日)の顕証寺さま蓮如忌法要への団体参拝ですが、この度のご法要は参拝者を大幅に限定し、また法中(僧侶)への出勤依頼は無く、内勤めをされるということですので、当山からの団体参拝のご案内は中止といたします。

(なお、当日のお参りは通常通りお伺いいたします。)

